

ヒメトビウンカの越冬世代幼虫保毒虫率及び 今後のイネ縞葉枯病対策について

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が高い地点が確認されています。
田植え前に育苗箱施用剤を使用するなど、引き続き、防除対策を実施しましょう！

1. 検定結果

2月15日および2月26、28日にかけて、坂東普及センター管内（古河市、坂東市、五霞町、境町）の水田畦畔等からヒメトビウンカ越冬世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率を調査しました。その結果、調査地点のうち半数で保毒虫率が上昇しました。また、昨年より上昇した3地点すべてが5.0%以上（※）となりました（表1）。引き続き、防除対策を徹底しましょう。

（※）県農業研究所のイネ縞葉枯病防除マニュアルにおいて、育苗箱施用等による薬剤防除を推奨する値。

表1 各地点で採集されたヒメトビウンカ幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

| 調査地点 | 保毒虫率(%) ¹⁾ | | |
|-------------------------|-----------------------|------|------|
| | 令和4年 | 令和5年 | 令和6年 |
| 古河市(総和地区) ²⁾ | 4.8 | 3.2 | 5.3 |
| 古河市(三和地区) ³⁾ | 6.6 | 7.4 | 3.1 |
| 坂東市(岩井地区) ²⁾ | 3.2 | 4.8 | 8.6 |
| 坂東市(猿島地区) ³⁾ | 5.4 | 3.2 | 3.1 |
| 五霞町 ³⁾ | 2.1 | 1.1 | 5.2 |
| 境町 ³⁾ | 2.6 | 2.1 | 1.0 |
| 平均 | 4.1 | 3.6 | 4.4 |

1) 簡易ELISA法により検定口

古河市(総和地区)及び坂東市(岩井地区)は県病虫害防除部調査、その他は普及センター調査

2) 採集日: 令和6年2月15日、検定日: 令和6年3月6日 サンプル数: 総和地区188頭
岩井地区185頭

3) 採集日: 令和6年2月26日、28日 検定日: 令和6年3月11日 サンプル数: 各地点94頭

2. 防除対策

県西地域のヒメトビウンカにおいて、イミダクロプリド（主な商品名；アドマイヤーCR箱粒剤）の効果が低下傾向にあることが報告されています（※）。また、トリフルメゾピリムもしくはフルピリミンを成分に含む育苗箱施用剤の効果が高いことも報告されています（※）。表2を参考に効果の高い育苗箱施用剤を使用しましょう。また、イネ縞葉枯病を抑えるためには地域一体となった防除が重要です。抵抗性品種においても、育苗箱施用剤を使用するようにしましょう。

（※）令和2年度県農業研究所主要成果に基づく

表2 ウンカ類に効果の高い育苗箱施用剤の例

| 薬剤名 | 希釈倍数 使用量 | 使用時期 | 使用方法 | 本剤の 使用回数 | 有効成分 | |
|-----------------------|--|-------------------|----------------------------|-------------|-------------|---|
| | | | | | 種類 | 総使用回数 |
| 防人箱粒剤 | 育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌 約5L)1箱あたり 50g | 播種時(覆土前) ～移植当日 | 育苗箱の上から 均一に散布する | 1回以内 | クロラントラニプロール | 1回 |
| | | | | | トリフルメゾピリム | 1回 |
| | | | | | イソチアニル | 3回以内 (但し、移植時までの処理は1 回以内、本田では2回以内) |
| ゼクサロン パディート 箱粒剤 | 育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌 約5L)1箱あたり 50g | 播種時(覆土前) ～移植当日 | 育苗箱の上から 均一に散布する | 1回以内 | シアントラニプロール | 1回 |
| | | 播種前 | 育苗箱の床土又 は覆土に均一に 混和する | | トリフルメゾピリム | 1回 |
| フェルテラ ゼクサロン 箱粒剤 | 育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌 約5L)1箱あたり 50g | 播種時(覆土前) ～移植当日 | 育苗箱の上から 均一に散布する | 1回以内 | クロラントラニプロール | 1回 |
| | | | | | トリフルメゾピリム | 1回 |
| リディア箱粒剤 | 育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌 約5L)1箱あたり 50g | 移植3日前～移植 当日 | 育苗箱の上から 均一に散布する | 1回以内 | フルピリミン | 3回以内 (但し、移植時までの処理は1 回以内、本田では2回以内) |
| アレス箱粒剤 | 育苗箱(30×60× 3cm、使用土壌 約5L)1箱あたり 50g | 播種時(覆土前) ～移植当日 | 育苗箱の上から 均一に散布する | 1回以内 | オキサゾスルフィル | 1回 |
| | | 播種前 | 育苗箱の床土又 は覆土に均一に 混和する | | | |

- ・参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください（令和6年3月15日登録確認）。
- ・農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。
- ・農薬の安全性評価に新たな手法として短期暴露評価が導入されることとなりました。それにとまない、農薬によっては使用できなくなる作物が生じたり、使用方法の変更が行われる場合があります。短期暴露評価により使用方法の変更がされた農薬は、農薬容器のラベルに記載された使用方法ではなく、変更後の使用方法が記載されたメーカーのチラシ等、最新の情報に従って使用してください。最新の情報は農薬の販売店等や茨城県（病害虫防除部）のホームページ等で確認してください。